



三重中央だより

当院の理念(Principle) ● いのちの尊さを自覚し、病む人の身になって、安心で質の高い医療を行います。

テーマ

躍動！三重中央 薬剤師 新時代



巻頭言

三重県薬剤師会
会長 西井政彦

三重県薬剤師会と三重中央医療センターのお付き合いは古く、昭和54年10月1日に三重中央医療センターの前身である国立津病院の隣接地に私どもが会営久居調剤薬局を開設して以来となります。その当時は我が国における医薬分業の黎明期にあたり、国立津病院の院外処方箋の発行は全国の国立病院の魁となりました。私ども三重県薬剤師会は、その受け入れ態勢を充実する一環として会営久居調剤薬局を開設しました。その後、国立津病院は、平成10年に国立療養所静澄病院との統合により現在の場所に国立三重中央病院として移転され、平成16年4月に現在の国立病院機構三重中央医療センターと改称されました。私どもの会営薬局も同時に移転し、現在の姿となっています。その間、三重中央医療センターは、周産期緊急医療や感染症医療等多くの医療分野において、先進的な医療の提供を通じて三重県の地域医療を支えていただきました。三重県民の一人といたしましても、その多くの業績に深く感謝させていただく次第です。

我が国では、少子高齢社会の進展、疾病構造の変化、情報通信技術の普及や国民の意識の変化などが相まって、医療提供体制の充実が求められ、医療・介護分野では、多疾病共存型の高齢者医療の割合が増加し、これまでの「病院完結型」の医療から「地域完結型」への移行が示されました。また、全国の処方せん受取率（いわゆる分

業率）は、昭和61年度の9.7%から平成24年度には66.1%に、本県においても同様に6.1%から55.1%に進展し、医薬分業が普及、定着してまいりました。

このような社会背景を踏まえて、医療において薬物療法に携わる私ども薬剤師は、病院では病棟業務や注射剤などの無菌製剤の調整などの幅広い分野で活躍の場を得て、薬局では処方確認や服薬指導などを通じて地域医療に参画してまいりました。

入院から通院、そして在宅へと、安全で安心、シームレスな医療提供体制の確保に貢献するとともに、医師、看護師、介護支援専門員等の医療・介護関連の多職種と、相互にその専門性を十分に尊重したうえで、連携していくことがさらに期待されています。そのためには、多職種連携の第1歩として、病院薬剤師と薬局薬剤師のいわゆる薬薬連携が欠かせません。犬飼直也薬剤科長には中勢薬薬連携会（2ヵ月に1回開催）を立ち上げていただき、病院と薬局の情報交換の場を提供していただいております。感謝申し上げます。病院の業務紹介や薬局の業務紹介、研修会の開催や三重医療安心ネットワークについての情報提供、薬剤科での薬の勉強会への参加などを通して、お互い顔の見える関係ができておりますが、引き続き、一層の緊密な連携をお願いする次第です。

最後になりますが、三重県薬剤師会は、会員薬局とともに県民の皆様安全で安心な薬物療法を提供できるよう、真摯に日々の業務に取り組んで参ります。森本保院長はじめ三重中央医療センターの先生方には、引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

病院薬剤師の新しい道

時代は常に変化しています。その流れは病院勤務の薬剤師も同様です。私が就職した時代は朝から夕方まで、大勢の外来患者さんの調剤のために狭い調剤室を駆け回り、

暖房をかけていない冬でも汗をかいて業務をこなしていました。その後は勉強会や研究、そして入院患者さんの様子を伺ったりの毎日でした。やがて時代は変わり現在、外来患者さんの調剤は大半が院外処方せんとなりました。病院内での調剤は入院患者さんに重点が置かれ、それまで費やされてき

た時間は入院患者さんのために有効に利用できるようになり、薬の効果や副作用などの注意すべき情報、飲み方や使い方の説明など、薬を正しく使用して頂くために個別にお話ができるようになりました。

本来薬はそれだけでは薬としては不十分な状態です。薬の特徴、効果があるとした基礎・臨床データや文献などの信頼できる根拠、新薬や新しい使い方など様々な情報が備わって初めて薬と言えます。薬剤師はそれらの情報を収集加工して患者さん、医師、看護師等の目的に応じ情報発信しています。今はインターネットの普及で便利になりましたが、薬の情報を正しく理解し整理するにはやはり薬剤師の存在が必要です。そんな能力が求められて栄養サポート、感染制御、疼痛緩和、褥瘡対策、医療安全等それぞれの場面で、薬剤師は医師、看護師、栄養士、検査技師などと一緒に患者さんを回診するなどして、多方面から意見交換してケアするチーム医療を実践しています。

これらの薬剤師の活動のためには必要とされる

知識もどんどん高度になりました。がん、糖尿病をはじめとするチーム医療に欠かせない分野など多くの認定制度が増え、それらの資格を持った薬剤師のみに認められる医療点数もあります。薬剤師は自分が求める資格に照準を当て日々研鑽を積んでいます。



薬剤科長 犬飼 直也

一方で知識以外に高度な技術も必要になってきました。病室では点滴をされる患者さんも多くいらっしゃいますが、輸液ポンプの設定や点滴につなぐチューブ接続などの確認法、更には、副作用の早期発見のために聴診器の使用法などが挙げられます。これらは過去には無かった技術であり、シミュレーション機械を利用して技術を学ぶ研修

が盛んです。まだ全国でも一般的ではないかもしれませんが、今後広まっていく事と思います。

病院の他に保険薬局にも薬剤師が居ます、調剤薬局やドラッグストアの方が分かるかもしれません。最初にお話しした院外処方せんの調剤を受け入れて頂いている薬局です。入院中は私たち病院薬剤師が、患者さんの薬の使用前から使用後までをケアさせて頂きますが、退院後はなかなか困難です。そこで保険薬局の薬剤師の出番です。しかし、そこには患者さんに関する情報は、皆さんが医師から受け取られた処方せんしかありません。ですから外来患者さんに適切な薬のケアをするにはお薬手帳などの情報が役に立つのです。当院では定期的に保険薬局の薬剤師との会議を設け、新薬、治療法や副作用などの情報交換をしています。外来から入院、そして退院後といった患者さんの一連の治療の流れの中で、一貫して薬剤師が患者さんのプラスになる役割が果たせるよう（薬薬）連携しています。

ジェネリック医薬品の正しい理解 ～新しい医療のかたち～

みなさんはジェネリック医薬品（以下 ジェネリック）と聞いてどのような印象を持っているでしょうか？ジェネリックは後発医薬品とも呼ばれ、値段も安いことから効果や安全性に不安を持っている人も多いのではないのでしょうか？一般的に値段が安いのに品質が同じというのは理解しにくい事だと思います。しかし、値段が安いには理由があります。通常、新しい医薬品を開発するためには10～20年の歳月と数百億円以上の費用を要するといわれています。薬の原材料費は微々たるものであり、薬の値段（薬価）は、この開発費等を考慮して決められます。順調に使用されれば数年で利益が生まれ、使用される期間が長いほど製薬メーカーの利益は大きくなります。そのため、新医薬品を販売し、一定期間経過後（通常8～10年）は、他メーカーから同成分の医薬品（ジェネリック）が販売可能となります。これらには膨大な開発費が不要なことから同じ成分・含量であっても安い薬価となります。ただし、ジェネリックは先発医薬品と全く同じではありません。このことが患者さんのみならず、一部の医療従事者さえもジェネリックへの不安を口にする原因となっています。医薬品の製法には特許が多く、各メーカーが異なる製法を用いることから先発医薬品と成分や含量は同じですが、添加物が異なってしまいます。ただし、これがジェネリックの効果や安全性に影響することはありません。日本の医薬品に添加できる物質（添加物）とその量には厳密な



副薬剤科長 市野 貴信

安全基準があり、ジェネリックもこの基準をクリアしていることから、安心して使用いただけます。（ただし、他の医薬品と同様切り替え後、数日間は添加物に対するアレルギー反応に注意が必要です）

日本の医療費は年間約38.4兆円（平成24年度）であり、毎年約1兆円ずつ増加しています。これは日本の税収約42.8兆円（平成23年度）に匹敵する額であり、今後の少子高齢化を考えれば、若い世代のさらなる医療費負担増大は免れません。医療費抑制は喫緊の課題ですが、医師、看護師等の人件費抑制や新しい治療法・検査法の保険適応見送りは医療の質の低下につながります。しかし、ジェネリックの使用促進は、医療の質を低下させることなく医療費を低減させることができる数少ない方策です。日本におけるジェネリックの使用比率は22.8%（平成23年度）で、アメリカ（72%）、イギリス（66%）、ドイツ（63%）などの先進国に比べまだまだ低いのが現状です。私たち医療従事者も患者さんと共にジェネリックを正しく理解し、率先して使用することが必要ではないのでしょうか？





製剤主任 矢嶋 隆宏

新しい時代の抗がん剤治療

～優しさと安全と～

当院は、地域がん診療拠点病院であり、抗がん剤による治療が多く行われています。治療には飲み薬と点滴による治療法があります。以前は入院して治療するのが一般的で、はきけ、白血球の減少など副作用に苦しむイメージが強かったと思いますが、最近ではこれら副作用の予防薬が数多く誕生して対処できるようになり、定期的な外来通院での治療が主流となっています。

抗がん剤は、他の薬と比べて副作用があり、また作用の異なる抗がん剤を組み合わせることも多いため、副作用が起り易い状態にあります。従って、高血圧などの治療薬とは異なり治療計画（レ

ジメン）に基づいて、適切かつ安全に治療を行うことが求められることから、専門的な知識や技術が不可欠となります。

抗がん剤を調製する前の準備段階として患者さんごとの治療計画に基づき、投与量、投与間隔、当日の検査値などから、患者さんが投与するのにふさわしい状況にあるのかチェックするところから始まります。医師と薬剤師が二重にチェックすることで、患者さんは安全に治療が受けられます。

次に抗がん剤の調製です。抗がん剤は毒性が強いことから、特に調製時の取り扱いには注意が必要です。薬剤師は帽子、ガウン、マスク、防護メガネ、二重の手袋などで完全に防護し、専用の部屋にある専用の設備内で薬ごとの特徴を把握し、適切な手技で汚染の防止や、薬の安定性の確保に努め調製しています。また、その際も必ず薬剤師が二重のチェックを行っており、指示通り確実に調製しています。そして、患者さんのもとに運ばれ、看護師の再度チェックを経て投与されます。投与後は、副作用の徴候や抗がん剤の血管外への漏れがないかなど観察し、万が一その様な事態になっても速やかに対処できる様に準備しています。適宜面談をして副作用の予防や患者さんの状態に応じた薬の提案を医師にしています。この様に、抗がん剤の調製を通じて、薬剤師も医師、看護師と共に、安全に投与が行われるように努めています。

患者サービスを目指した調剤

～お薬相談室・調剤薬局・お薬手帳～

医師の処方に従いお薬を作ることを調剤といますが、ただ作るだけではなく、お薬の飲みあわせ、服用量、飲み方などいろいろなことを調べて、皆様に最適な状態の薬をお渡ししております。さらに、年齢、体重、検査値を基に皆様の身体の状態に合った処方であるか否か、といった薬学的管理を行っております。

お薬相談室を設置してプライバシーを守りながら副作用などの相談にも対応しています。インスリン、成長ホルモン、リウマチ治療薬など自己注



薬務主任 山田 潤

射の指導や、吸入薬の指導も実際のお薬や器具・資料を使用し、ご理解されるまでわかり易い説明

を心がけています。手順がよくわからない、手技に不安がある、説明は受けたいけれどもう一度詳しく知りたい、器具の故障・不具合等いつでも遠慮なくお申し出ください。

当院では原則的に院外処方とさせて頂き、薬剤師は全病棟へ赴いて入院患者さんへの対応にあたらせて頂いております、ご理解とご協力をお願い致します。院外処方をご利用頂きますと、当院以外の複数の医療施設から処方されたお薬の飲み合わせや重複投与、副作用・アレルギーのチェックなどしてくれます。ご自宅の近くや、帰宅途中などの調剤薬局をご利用ください。当院では調剤薬局と常に情報交換をしており、相互に連携して患

者さんのケアを目指しております、かかりつけとして同じ調剤薬局のご利用をお勧め致します。

最後に…皆さんは「お薬手帳」をお持ちですか？皆様の服用されているお薬の履歴書です。いつどこでどんなお薬が処方されたかを記載する手帳です。この手帳があればどの薬局においても飲み合わせや副作用のチェックがスムーズにできます。屋外で突然倒れた時や災害等でお薬を紛失した時にも、あなたの身体状況や治療中の薬、かかりつけ病院などを知る上で、救急隊員や運び込まれた病院で大変役に立ちます。東日本大震災の時は大いに役立ちました。あなた自信の為に！お持ちでない方は窓口でお声かけください。

“薬の候補”を“薬”とするために ～未来への贈り物～

新しい薬を開発するためには、薬の候補について動物で効果や毒性を調べるだけでなく、人での効き目（有効性）や副作用（安全性）を確認する必要があります。人での有効性や安全性について調べる試験を一般に臨床試験、国から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことを治験、薬の候補を治験薬と呼んでいます。当院においても、該当する患者さんのために、積極的に治験に取り組んでいます。

治験は以下の3段階に沿って実施されます。

- 第1 相試験…少人数の健康な人を対象に、治験薬の安全性を確認します。
- 第2 相試験…治験薬の効果が示すと予想される少人数の患者さんを対象に、治験薬の有効性と安全性を確認します。
- 第3 相試験…より多くの患者さんで、治験薬の有効性と安全性を確認します。

治験は人を対象とした臨床試験ですので、国の定めた大変厳しいルール「医薬品の臨床試験の実施に関する基準(GCP)」に従って行われています。医師はもちろん、治験を専門とする薬剤師、看護師等が患者さんに治験について十分に説明し、理解された上でご本人の判断により治験に参加することに同意（インフォームド・コンセント）して



薬務主任 三木 陽介

いただきます。

治験に参加していただいた患者さんの人権及び安全は最大限に尊重され、秘密は守られた上で治験薬の有効性や安全性などを慎重に調べます。開始後もご本人の意志でいつでも中止することができます。これにより、患者さんが何ら不利益を被ることはありません。治験薬が薬として認可されるようになれば、参加された皆さんのおかげで病気にお悩みの多くの患者さんを救うことが可能となります。現在ある効果的な薬は、すべて治験に参加していただいた方々の貴重なデータがあってこそなのです。

“薬の候補”を“薬”とするために、薬剤師も皆さんへの説明や、試験の内容を審議する会議に出席するなどして関わっています。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

病棟を走る薬剤師 次世代へのバトン



調剤主任 中村 卓巨

病院薬剤師の業務の一つに薬剤管理業務があります。ベッドサイドでの服薬指導はもちろんのこと、患者さんが持ち込まれたお薬を入院された時点で鑑別し、診療する医師や看護師へフィードバックを行っています。多くの患者さんが当院だけではなく他の医療機関に受診さ

れており、様々なお薬を持参されます。同じ成分のお薬が当院に配置していない場合には、薬剤師として同効薬を医師へ提案しています。

また薬剤師が病棟に常駐し、医師や看護師の業務軽減を図る努力も始めております。当院では1日フ

ルに常駐することは達成できていませんが、少なくとも半日程度の時間は病棟に滞在し、病棟で扱われる薬剤の管理を行っています。薬剤師が病棟に常駐する事で薬剤に関する問題に速やかに介入できるようになっています。まだまだ薬剤師の職能を出さねばならないと思われるので、これからもチーム医療の一員として活動を続けていきます。

薬剤師の教育としては、大学と連携して薬学生の実務実習を引き受けています。実務実習のカリキュラム（11週間）には、当院の特色であるNICUやがん医療などの病棟における実務が体験できるように工夫をこらしております。

実習生は実習期間中、病態や服薬指導をテーマとしたスライドを作成していますが、その発表会には、近隣の病院や調剤薬局の薬剤師にも参加を依頼し、病院薬剤師からの評価だけではなく、調剤薬局の薬剤師から見た評価も実習生にフィードバックできるようにしています。

病院見学を①早期体験実習②就職希望者③中学生を対象に実施しています。早期体験実習は薬科大学の1年生が対象で、調剤室の仕事内容だけではなく病棟見学も盛り込み、病院薬剤師を目指してもらいたいとの希望を込めています。さらに、医療関係に興味のある中学生に対して薬剤師の良さをアピールし、将来目指して貰えるようにと「模擬薬局」というテーマでお菓子をを用いて実際の調剤に近い体験実習を行っています。

注射薬ピッキングマシンが 今を変える

注射薬は内服薬と違い、薬が直接からだの中に入るので、作用も速く、効果も強いのが一般的です。従って、より慎重な取り扱いが求められます。また液剤のため、他の注射薬との配合変化も多くあり、注射する速度等にも配慮が必要です。少量で命にかかわる薬も多くあり、注射薬調剤は特に注意を払う必要がある業務となっています。薬剤師はそれら多くの確認をしながら指示に従って棚から注射薬を選択し、個別に取り揃える等完成するには時間がかかっていました。注射薬自動払い出し装置（ピッキングマシン）は電子カルテのデータに従い、各種の注射薬を必要な本数だけ取り揃え、写真の様に1回分ずつにラベルと共にセットし、病棟ごとの専用台車にセットしてくれます。こうして調剤が機械化により効率的になった分、薬剤師が薬学的な確認に専念



試験検査主任 南谷 浄

できるようになりました。病棟看護師においても注射剤が患者一回分毎に見易く用意されているので、確認作業が確実に簡単になります。後は、病棟配置の薬剤師が実際の点滴ラインをチェックしたり、配合変化に留意した接続などの対応に当たります。また、薬の種類によっては、副作用の有無の確認をさせていただきます。こうした機械化によって生まれた時間を、私たち薬剤師はより患者さんの安全、安心確保のために利用しています。

輝くメディカルスタッフたち

医師、看護師以外にも、多くの専門性を持ったスタッフが当院院内で活動しています。その人と仕事にスポットを当てて紹介します。

診療放射線技師 内藤 明日香



みなさん、診療放射線技師という職業をご存知でしょうか。エックス線写真を撮るときに「息を吸って、止めて下さい」と言っている人と考え方も多いのではないのでしょうか。しかし、エックス線撮影だけでなく、CT検査、MRI検査、アイソトープ（RI）検査、骨密度測定検査、血管造影検査などの画像診断、そしてがん治療の3本柱である放射線治療などのさまざまな診療に携わっています。当院には診療放射線技師が15名おりますが、女性技師はわずか2名です。他の医療職種に比べて、非常に少数だと言えます。

私は、診療放射線技師として当院に就職して今年で4年目となりました。現在はマンモグラフィー検査をはじめとしたエックス線撮影、CT検査、MRI検査、血管撮影等の検査に携わっておりますが、この4月よりマンモグラフィー検査の画質、機器管理等の責任を持たせていただく立場となりました。当院のマンモグラフィー検査の質を担保するため、日本乳がん検診精度管理中央機構の

「検診マンモグラフィー撮影認定診療放射線技師」の資格を取得しました。毎週開催されるマンモグラフィー読影カンファレンスにも欠かさず出席し、自身が撮影した画像を医師とともに確認することで、より質の高い診療が提供できると思い日々精進しております。

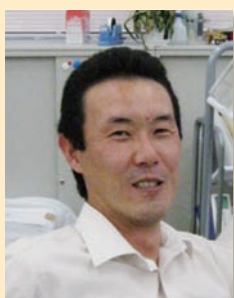
まずは、患者さまに安心して検査を受けていただくことが、大切だと考えていますので、検査に関して、疑問点などございましたら、遠慮なく担当の診療放射線技師にご相談ください。女性患者さまで、男性技師にはなかなか聞けないようなことでも私たち女性技師が、積極的にご相談ののりたいて考えていますのでお気軽に声をかけていただければと思います。

これからも、質の高い画像を提供するとともに、チーム医療を担う一員として、日々進歩する医療や装置に対応するべくさらなる努力をしていきます。

シリーズ 医療用語の 基礎知識 4

病院職員が何気なく使用している用語で、普通にはあまり馴染みがない医療用語を分かりやすく解説します。

クリティカルパス



クリティカルパスという言葉は、元々工業界において使われていた言葉ですが、近年は病院でも良く耳にします。病院では同義語でクリニカルパスや、単にパスと呼ばれることもあります。（ここでも以下パスと呼びます。）病院でのパスとは、ある程度治療方法が標準化されている症例に対し、治療や評価のスケジュールを、表で管理しているものです。患者さまには入院の際に、イラスト付きのパスを「入院診療計画書」として渡している病院も多いかと思います。ではパスにはどんなメリットがあるのでしょうか。

患者さまには、入院から退院までのスケジュールが示されているため、入院期間はもちろん、明日にはどんな治療を受けるか、自分は今治療のどの段階なのかなど、治療内容や経過が一目瞭然で分かるというメリットがあります。気持ちの面でも安心して医療を受けられ、また治療内容を事前に把握することができるため、患者さまから医療スタッフに相談や質問もしやすくなると思います。

病院側のメリットは、1番目として医療の標準化が挙げられます。つまり、専門的且つ高いレベルで作成されたパスにより、誰が主治医になっても同じ医療を提供することができるということです。2番目に医師、看護師、薬剤師等、専門分野のスタッフの互いの役割が明確になり、情報も共有できるため、チームとしての医療が推進されます。3番目に入院期間や検査回数等が決められているため、必要以上の入院日数や余分な検査の削減、すなわちコストの削減につながります。コストの削減は病院側だけではなく、患者さまの負担も少なくなるというメリットがあります。

当院でも常時パスの見直し、新規作成を行い、標準的で質の高い医療を提供することに努めています。もしパスを見て疑問に思う点がございましたら、お気軽に質問してください。

（医事 伊藤啓之）

赴任された先生方



新谷 健

2014年4月1日より三重中央医療センター整形外科に赴任させて頂きました新谷健と申します。1999年に三重大学を卒業し、県立志摩病院、紀南病院、市立伊勢総合病院、そして前任の四日市社会保険病院（現、四日市羽津医療センター）など三重県内各地の病院で勤務させて頂きました。四肢の骨折など外傷を始め、関節リウマチ、脊椎疾患など整形外科の領域全般を経験し、診療させて頂いてきました。整形外科では、個々の症例に対して検討会や総回診などで最適な治療方針を検討しており、当院のスタッフの一員として津・久居地区の医療に微力ながらも貢献できるように頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

初めまして。4月より三重中央医療センターに赴任させていただいた、十時（とき）と申します。

出身地は大分県で、卒業大学は藤田保健衛生大学です。国立大学で物理学を履修していました。その後、歯学部を経て、医学部へ入学、卒業した、いわゆる変わり種です。口腔から肛門までの消化管、肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓を診る医師として、消化器科を担当しております。消化器科は内科の一分野ですので、診断することに意義を見いだしています。診断するためには検査が必須で、当院の消化器科では上部・下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査などを行っています。また、放射線科でCT検査（身体を輪切りにしてみる検査）、MRI（磁石を使った画像検査）、消化管造影などを行っています。検査科では各種血液検査のほか、体表からの腹部超音波検査などを行っています。患者様の訴えから、各種検査を選択、診断し、治療方針を決めていきます。当院は地域がん診療連携拠点病院でもあり、がんの診断にも力をいれております。内視鏡室では以前から、早期胃癌、早期大腸癌の発見に力をいれており、検査に対して、私も意欲的に取り組む所存です。毎週水曜日に初診外来を担当することになっておりますので、症状について教えていただき、困っていることの解消、がんの早期発見について、お手伝いできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

十時利明



道端 肇

今年度より三重中央医療センターに赴任しました道端肇と申します。出身は三重県で、卒業大学は三重大学です。趣味はランニングとスキューバダイビングです。ランニングは大学時代から始め、フルマラソンや100キロマラソンに出場していました。最近はマラソン大会に出場する機会はほとんどなくなりましたが、ランニングは時間を見つけては走るようにしています。また、スキューバダイビングも大学時代から続けています。数年前にパラオを旅行した際、ジャーマンチャンネルで見たたくさんのマンタは圧巻でした。

三重中央医療センターは、総合周産期母子医療センターとして三重県より認定を受け、三重県における周産期医療の中核病院となっております。現在、産婦人科医師8名、助産師、看護師とともに診療にあたっております。私自身は、毎週火曜日・金曜日の外来を担当しております。困っていることがあれば気軽にお話ください。よろしくお願いいたします。

第6回・第7回・第8回 「出前！ 市民公開講座」開催

第6回

津市健康づくり推進連絡協議会 久居支部

4月22日に津市健康づくり推進連絡協議会 久居支部のご依頼により久居総合支所において「老いてもりもり：高齢者の食事指針」というテーマで 山田裕昭栄養管理室長による講演を行いました。「低栄養の症状」から始まり、「食べやすい食事」に関してお話し、「バランスのとれた食事が大切とわかっていても、つつい同じ食事ばかりで・・・」と日頃の悩みを解消していただく機会となりました。



第7回

幸旅福寿クラブ



4月28日に幸旅福寿クラブのご依頼によりサンライフで池田知子言語療法士による「認知症かな？と思ったら」のテーマでお話をさせていただきました。

ご家庭で簡単にできる認知症テストもお話しさせていただきました、「私認知症かしら??」と笑いあいの楽しい雰囲気の中、たくさんの方に興味を持っていただきました。

終了時には、多くの方にクローバー友の会に入会していただきました。

第8回

イオン津南ショッピングセンター サンバレー

恒例となりましたイオン津南ショッピングセンター サンバレーにおいて「これだけは知っておきたい薬の常識」「くすりと栄養の話」と題し、矢嶋隆宏・堀沢知世両薬剤師による講演を行いました。

薬を飲む時の飲み物やくすりと栄養の関係をお話させていただきました。

また、講演を聴きに来店しましたと言っている方が多数おられ、サンバレーでの講演を楽しみにして頂いていると実感しています。



がんに関する市民公開講座

参加無料

参加申し込み
不要

生活習慣と肝臓がん

日時

2014年9月27日(土)
12:30～16:00 (12:00開場、受付開始)

会場

アスト津4階 アストホール

〒514-0009 津市羽所町700番地
TEL 059-222-2525

- 公共交通機関…津駅から徒歩1分
- お車…伊勢自動車道 津I.C.から約10分



※駐車料金のご利用者様のご負担となります。

5月17日

「ナイチンゲールフェア in サンバレー」を開催いたしました

看護週間に合わせ、健康意識を高めていただく機会として病院を飛び出し「ナイチンゲールフェア in サンバレー」と題し、看護フェアを開催いたしました。

広報ポスター掲示に快く御協力いただいた地元のコンビニエンスストア各店に御礼を申し上げます。おかげ様

で372名というたくさんの方のご来場をいただきました。

内容はバラエティに富み、お子様に白衣を着ていただく「ナースなりきりちびっこ写真館」：小さなお子さんから中学生まで白衣姿を嬉しそうに撮影していたのも微笑ましい光景でした。手術の体験ができる「ドクターなりきり手術室」：

現役外科医の指導で、縫合シーンを本物の糸、針を使い実現しまし

た。お子様だけでなく、お父さんお母さんにも悪戦

苦闘しながらの縫合体験をしていただきました。

薬の調合を体験する「一日体験・薬剤師さん」：ジュースとお菓子を使った体験には120名という大勢の方に参加していただきました。

12ブースでビックリ体験のオンパレードでした。

今年体験された方も、来年は参加してみよう考える方も、体験したい内容のご希望がありましたら、御意見をお寄せください。来年に向けて構想が膨らんでいます。



こころ 和む

院内コンサートを開催いたしました！

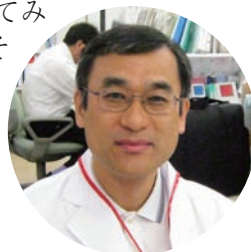


5月25日五月晴れの日曜日
の午後に、“こころ和む院内コンサート”を開催いたしました。毎年この時期に定期的に開催しており、今年で8回目を迎えることができました。

入院中の患者様並びにご家族の方々にとっては日々のつらい入院療養生活を送るなかほんの一時でもつらさを忘れることができる様な催し物が何か提供できないかと考えた時、病院のエントランスホールはきっと素晴らしいコンサート会場となるの思い（込み？）から演奏会開催を8年前に企画しました。毎年開催に際して近隣の高等学校やボランティア活動されている団体に声掛けさせて頂き、コン

サート開催の趣旨にご賛同いただきご協力いただけてきました。今までご協力いただきましたすべての皆様に改めて心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今年もエントランスホールには日生学園高等学校のハンドベルとアンサンブルルンデが奏でるオーケストラの素晴らしいハーモニーが響き渡り皆さんの心に強い感動を与えて頂きました。それぞれの楽器はそれだけでも素晴らしい音色（専門職）を発揮してくれますが、様々なパートの良さを引き出しそれをひとつにまとめる指揮者（病院長）が一つの素晴らしい音楽を作り上げる（チーム医療の提供）ことができます。音楽の楽しさを味わうことができたのと同時に演奏会を通じて日常私たちが働く病院そのものの機能を想像してみました。今後も医療職としてそれぞれの持つ専門性を最大限発揮して力を合わせて今後も患者様に最良の医療を提供できるように頑張っていきたいと改めて思った次第です。



「クローバー友の会」

会 員 募 集

「クローバー友の会」は地域の皆様と病院が、様々な病気・医療の学習を通して理解を深め合う会として発足しました。賛同いただける方はぜひ会員登録をお願いいたします。登録は無料です。規約および申し込み用紙は地域連携室にございます。受付でお声かけください。登録と同時に会員証をお渡しいたします。

記入いただいた個人情報には本会の業務以外には使用せず、安全かつ適切に管理いたします。

三重中央医療センター 地域医療連携室

国立病院機構
三重中央医療センター
クローバー友の会事務局

〒514-1101 三重県津市久居明神町2158-5
TEL. 059-259-1211 内
地域医療連携室

国立病院機構
三重中央医療センター クローバー友の会

会員にご登録いただきありがとうございます。
講演会に参加いただくことに1スタンプ押印いたします。
(スタンプ数による特典は別紙公表いたします。特典は変わることがあります。)

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

■会員用紙

住所 _____

氏名 _____

電話 _____

編 集 後 記

今回は薬剤科特集です。薬剤師の活躍の場が、一昔前では想像できないくらい大きく広がっています。薬剤師が病棟、外来、手術室という病院の表舞台に登場したことが大きな変化で、より安心、安全が確保されるでしょう。入院中に担当薬剤師さんの顔を覚えた方も多いのではないのでしょうか。当院では職員の顔、名前を知っていただき、お困りの時に声をかけやすい環境作りを目指します。医師、輝くメディカルスタッフたちも毎号に登場します。顔を覚えていただき、職員に遠慮なく声をかけてください。皆様との対話を通してより良い療養のお手伝いをさせていただきます。（霜）

発行所

三重中央医療センター
院長 森 本 保

三重県津市久居明神町2158番地5
TEL. 059-259-1211
<http://www.hosp.go.jp/~nmch>

●●● 三重中央医療センター連携医療機関紹介 ●●●●●●

金 森 皮 フ 科



金森皮フ科は津市野田に平成7年3月に開院し、20年目を迎えようとしています。この5月より院長が金森祐太医師に代わり、診療を行っています。

診療科目は皮膚科一般。あせも、かぶれ、虫さされなどをはじめとしてほくろなどの皮膚腫瘍の診断および手術治療もさせていただきます。

お近くの患者様には定期的に往診をさせていただきます。

皮膚科は他の診療科との連携なしには成立し難い診療科であり、三重中央医療センターとも連携させていただきます。

今後とも宜しくお願い致します。

院 長：金森 祐太
住 所：〒514-0826 津市野田33-8
電 話：059-237-3366 FAX：059-237-4388
診療科目：皮膚科
診療時間：9：00～12：00
15：15～18：30（土曜日は17：30まで）
休 診 日：木曜日、日曜日、祝日

竹 原 診 療 所



合併によって「美杉村」が誕生したのが昭和30年で、当院の前身である「美杉村国民健康保険竹原診療所」の開設もその頃と伺っております。平成18年には更なる合併により、「津市国民健康保険竹原診療所」となりました。間もなく60年を迎えます。

その間、二度の転居を経て、三か所目の現在地は廃校した竹原小学校にあります。役所支所と分けあっており、他の医院が個性あるエントランスを構えている

のに比べて見劣りしてしまいます。

竹原診療所に着任して頂いた医師も数多く、県立一志病院と美杉診療所（以前は八幡診療所からも）の当番制で診療しています。かくいう私も着任して28年目に入ります。

現在の診療体制としては、月曜日：四方院長先生、火曜日：竹田先生、木曜日：矢部先生（いずれも午後1時～3時）、金曜日：田中（午後1時～4時）となっています。皆が兼任のため、午後からの診療となり、地区の患者の皆様にはご不便をかけております。一日くらは午前中の診療が設定できるように、市と相談していきたいと考えています。

現在地に移転してからは、医療機材も徐々に完備しつつあり、地域の一次医療、健診事業や予防接種、医療相談等を担っております。また後方の県立一志病院や三重中央医療センターとも連携して診療にあたりたいと思います。今後とも診療体制の充実に腐心してまいります。
(文責：田中仁史)

寺西胃腸科内科クリニック



当院は平成18年4月に伊勢自動車道津インター南2kmほどの津市野田で開院し約8年になります。

開院当初より主に消化器疾患の診断と治療を中心に診療しており、特に上部消化管では経鼻胃内視鏡を用いた苦痛の少ない検査を心掛けています。また一般内科疾患全般や検診・予防接種の診療に加え、クリニックでは限界もありますが、肛門疾患、軽度の外傷などにも出来る限り対応させて頂いています。

診察に際しては丁寧な説明に心がけ、皆様にできるだけ納得していただけるような診療を心掛けています。

最近の医療技術の進歩により、特に急性疾患に関しては以前にもまして早急な検査、治療が必要となってきました。そのような急性疾患や専門的な疾患に関しては、周辺の高次医療機関を含め、三重中央医療センターの先生方には大変お世話になっております。

これからも積極的に病診連携を行いつつ、地域の皆様に愛される診療所を目指し、日々努力していきたいと思っております。

診療時間：午前 9：00～12：30（月曜～土曜）
午後 15：30～18：30（月、火、水、金）
14：00～17：00（土曜午後）
休 診 日：日曜、祝日、木曜午後
医 院 名：寺西胃腸科内科クリニック
院 長：寺西 正
住 所：津市野田浜垣内36-10
電 話：059-239-1777 FAX：059-239-1778
診 療 科：胃腸科、内科、外科、肛門科

（医）もみの木整形外科



当院は、津市の北部に位置しており、よく言えば地域密着型の診療所であり、いわゆる田舎の診療所です。

当診療所に関しては特にこの紙面で自慢できる整形外科的治療は恥かしながら皆無です。

ただ一つだけ小生が常に心掛けていることがあります。それは患者さんとお話するときに、決

して上から目線で話さない、患者さんと同じ目線でお話をするということです。

たいした治療は出来ませんが今後も周りの先生方、スタッフに支えられながら、このスタイルを貫いていこうと思っています。

院 長：大西 秀樹
住 所：514-2211 津市芸濃町椋本5069-6
電 話：059-266-2700
診療科目：整形外科、リウマチ科、
リハビリテーション科
休 診 日：日曜日、祝日、木曜午後

診療時間	日	月	火	水	木	金	土
9：00～12：00	×	○	○	○	○	○	○
15：00～18：30	×	○	○	○	×	○	△

△：土曜午後のみ 15：00から17：00



外 来 診 療 担 当 表

平成26年 7 月 1 日現在

診療科名等		月		火		水		木		金			
初診内科 (初診・予約外)		1 診	井端 英憲【呼】	大本 恭裕【呼】	北村 政美【循】	田中 剛史【糖】	川崎 敦【循】						
		2 診	竹内 圭介【消】	中久木 哲也【循】	藤本 源【呼】	田中 淳子【循】	後藤 浩之【糖】						
		3 診	新谷 卓也【循】	子日 克宣【消】	十時 利明【消】	渡邊 典子【消】	亀井 昭【消】						
	*初診及び紹介患者様は、総合内科で診察いたします。	4 診	中谷 仁【循】	奥田 昌也【糖】	田口 由紀子【消】	岡野 智仁【呼】	西井 洋一【呼】						
		10 診		吉川 京子【消】									
再診内科 (予約のみ)	呼吸器科	5 診				井端 英憲(午後再診)							
	循環器科	5 診	田中 淳子	川崎 敦	新谷 宇一郎	中久木 哲也(午前再診)		北村 政美					
	呼吸器科	6 診	藤本 源	井端 英憲	井端 英憲	大本 恭裕		大本 恭裕					
	消化器科	7 診	子日 克宣	亀井 昭	渡邊 典子	十時 利明		竹内 圭介					
	内 科	8 診	中久木 哲也【循】	新谷 卓也【循】	後藤 浩之【糖】	田口 由紀子【消】	中谷 仁【循】						
		9 診	後藤 浩之【糖】	田中 剛史【糖】	田中 剛史【糖】	田中(崇)【糖】	田中 剛史【糖】						
		10 診			西井 洋一【呼】	奥田 昌也【糖】	岡野 智仁【呼】						
整形1診			加藤 裕也【消】										
神経内科		1 診	北川 長生	梶川 博之(予約のみ)	北川 長生	梶川 博之	北川 長生(予約のみ)						
		2 診	吉丸 公子	北川 長生(予約のみ)	梶川 博之	北川 長生	吉丸 公子						
小児科		午 前	1 診	井戸 正流		井戸 正流	田中 滋己	田中 滋己					
			2 診	*NICUフォロー	*NICUフォロー	発達外来	*NICUフォロー						
			3 診		田中 滋己	山本 初実(予約)	井戸 正流						
			4 診	発達外来			発達外来						
		午 後	1 診	田中 滋己(予約)	乳児健診			予防接種					
			2 診	*NICUフォロー	2週間・1ヶ月健診	発達外来	*NICUフォロー						
			3 診	NICUフォロー		山本 初実(予約)	NICUフォロー	(NICUフォロー)					
外 科		1 診	横井 一	谷川 寛自	横井 一	信岡 祐	谷川 寛自						
		2 診	草深 智樹		武内 泰司郎								
整形外科 (予約・紹介のみ)		1 診	田中 雅		田中 雅								
		2 診	長倉 剛	*浅沼 由美子(休診中)	小寺 秀樹	*浅沼 由美子(休診中)	長倉 剛						
		3 診	新谷 健		新谷 健		小寺 秀樹						
脳神経外科		1 診	霜坂 辰一	石田 藤麿	霜坂 辰一	種村 浩	石田 藤麿						
		2 診		種村 浩(初診)		芝 真人	霜坂 辰一(予約のみ)						
脊椎・脊髄外科			*水野 正喜 *診療時間は10：00～14：00までとなります。										
呼吸器外科			安達 勝利			樽川 智人		安達 勝利					
心血管外科			森本 保		佐藤 友昭		ペースメーカーチェック		日置 巖雄				
皮膚科(*予約・紹介のみ)			中西 朝子			中西 朝子		三重大学医師		中西 朝子			
泌尿器科 *水曜日の初診及び再来初診の受付時間は 8：30～10：00までとなります。		1 診			加藤 雅史		*加藤 雅史(初診)		加藤 雅史		加藤 雅史(初診)		
		2 診			岩本 陽一(初診)		岩本 陽一		岩本 陽一(初診)		岩本 陽一		
産科・婦人科		午前	1 診(初診)	前川 有香		日下 秀人		前田 眞		吉村 公一		澤木 泰仁	
			2 診(婦人科再診)	前田 眞		前田 佳紀		吉村 公一		前田 佳紀		日下 秀人	
			3 診(産科再診)	武田 真由子		道端 肇		前川 有香		武田 真由子		道端 肇	
			4 診(助産師外来)	毎日、完全予約制(担当は交代制)									
		午後	1 診(産科再診)	前川 有香		日下 秀人		前川 有香		前田 佳紀		澤木 泰仁	
			2 診(婦人科再診)	澤木 泰仁		前田 佳紀		吉村 公一		吉村 公一		日下 秀人	
3 診	*助産師外来		産後一ヶ月健診		*助産師外来		*助産師外来		*助産師外来				
眼科(予約・紹介のみ) *水曜日の受付時間は8：30～10：30までとなります。			久瀬 真奈美						久瀬 真奈美		久瀬 真奈美		
耳鼻咽喉科		午前(初診)							*伊藤 由紀子		*伊藤 由紀子		
		午前(予約のみ)				伊藤 由紀子						伊藤 由紀子	
		午後(予約のみ)	伊藤 由紀子			中耳外来			中耳外来				
放射線科(7ブロック)			奥田 康之		奥田 康之		奥田 康之		奥田 康之		奥田 康之		
リハビリテーション科			小寺 秀樹		田中 雅		長倉 剛		長倉 剛		新谷 健		
歯科・歯科口腔外科			柳瀬 成章		柳瀬 成章		*柳瀬 成章		柳瀬 成章		柳瀬 成章(予約のみ)		
看護外来(予約)			看護外来 (第1月曜日 透析予防外来)		看護外来 (第3火曜日 透析予防外来)		糖尿病外来		ストーマ外来		フットケア外来		

*初診及び予約のない再診の方の受付時間は8:30～11:00までです。 *医師の人事異動・出張等により臨時に代診(休診)となる場合があります。
*当院のような急性期病院は、病棟入院患者様の処置、手術、検査、回診等があり、外来診療に制限を設けなければならない診療科もあることを御理解ください。

不整脈専門外来	肝炎外来	いびき・無呼吸検査	タバコ障害・COPD精査	ものわすれ外来	乳児健診	予防接種	NICUフォロー
月・火曜日 午前診療	月曜日 午前診療	月・火曜日 午前診療	月・火・水・木・金 午前診療	月・金曜日	火曜日 午後診療	金曜日 午後診療	月・火・木曜日 午前診療
循環器科(新谷)	消化器科(竹内)	呼吸器科	呼吸器科	神経内科(吉丸)	小児科		小児科(益野)
未破裂脳動脈瘤 専門外来	脊椎・脊髄外科専門	肺癌・良性肺腫瘍・ 気胸・縦隔腫瘍・膿胸	中耳外来 (予約)	ブレママ外来	おっぱい外来 (予約)	発達外来	
金曜日 午後診療(要予約)	火曜日(10時～14時) (要予約・紹介)	火・木・金 午前診療	火・木曜日 午後診療	火・木・金曜日 午前診療	月・火・木曜日 午後診療	月・水・木曜日 診療	
脳神経外科(石田)	脊椎・脊髄外科(水野)	呼吸器外科	耳鼻咽喉科(伊藤)	産科・婦人科		小児科(山川)	